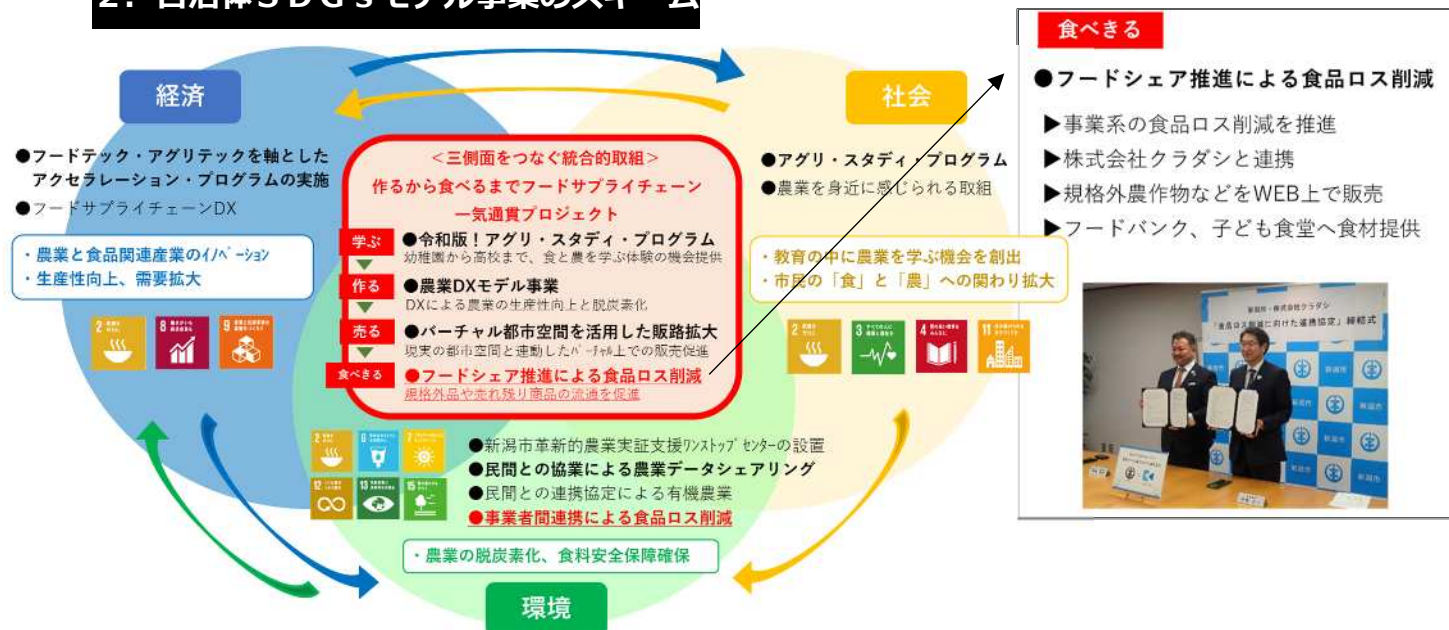


2022年度 SDGs 未来都市・自治体SDGs モデル事業

1. 経緯・概要

R4年 2月	<p><応募></p> <p>提案タイトル 「都市と田園の好循環」～デジタル技術で食と農の可能性を拓ける都市～</p> <p>食と農のポテンシャルと都市の利点を活かし、デジタル技術で食と農の可能性を拓け、農業と食に関連した課題の解決に取り組むことで、持続可能な都市の実現を目指すとともに、ゴール 2 番「飢餓をゼロに」の根幹とも言える食と農に真正面から取り組み、日本の食文化を守り支えるまちづくりを行う。</p>
5月	<p><SDGs 未来都市・自治体SDGs モデル事業に選定> 全国 30 都市（新潟県・佐渡市も選定）</p>
6月	<p><自治体SDGs モデル事業ヒアリング></p> <p>モデル事業名 「将来に向けた持続可能な食と農の創出プロジェクト」</p> <p>デジタル技術を有効に活用し、新潟市の強みである「食」と「農」の価値を今以上に高める取組を行うことで、経済面・社会面・環境面の課題解決につなげ、それを三側面をつなぐ統合的取組により、さらに加速させることで持続可能な「食」と「農」の創出を行い、2030年のめざす姿の実現を確かなものとする。</p> <p>※ 自治体SDGs モデル事業</p> <p>SDGs 未来都市のうち、先導的な取組として別途選定され、本市を含め、10都市の事業が選定（総額2千5百万円上限の補助金交付）</p>
8月	<p><事業開始></p> <p>【庁内体制】農林水産部、経済部、教育委員会、環境部、部局横断的な案件は、政策企画部</p>

2. 自治体SDGs モデル事業のスキーム



3. フードシェア推進による食品ロス削減事業（令和4年6月補正）

目的

食品ロス削減の取り組みのひとつである、未利用食品（賞味期限迫品、規格外品、収穫後廃棄品など）の有効活用に向け、連携協定を締結している株式会社クラダシと社会貢献型インターンシップを実施し、市内の食品関連事業者への「フードシェアリング」普及を推進する。

事業概要

フードシェアリングサービス事業者（㈱クラダシ）が展開する、「クラダシチャレンジ」の実施を中心に、社会課題解決への興味関心の高い学生と、市内農家をマッチングし、農業体験をとおして、食品ロス問題をはじめとした環境教育の機会を提供する。

都心と地元学生の合同実施により、交流人口の拡大、地方創生にもつなげる。

※ 新潟市と㈱クラダシ（東京都）は、「食品ロス削減に関する連携協定」を締結（令和4年3月）

●フードシェアリングとは

- ・何もしなければ廃棄されてしまう食品を、消費者の需要と結びつけることで、食品ロスの発生や、無駄を減らす仕組み



●クラダシチャレンジとは

- ・地方創生やフードロス問題に興味がある都心の学生が、人手不足に悩む地方農家で農業支援を通じ、地域課題やフードロスなどの社会問題について考える、社会貢献型インターンシップ

効果

- ①従来廃棄していた農産品・食品の活用
- ②地方の関係人口の増加、若者を呼び地域振興
- ③未収穫作物の収穫による新たな収益の獲得、地元特産品のPR

スケジュール

- 8月：事業委託先の決定
- 9月：委託業務の開始

